

意欲ある若者たちの「学び」を支援し、 伝え続けた「感謝」の心



学生一人ひとりに激励の言葉を贈り、握手を交わしていた雅俊。

若い人たちの
学びの機会を創り、
お世話になった方々に
報いたい

経営の道を歩みながら、未来を担う若い世代の育成にも注力した伊藤雅俊は、1994年、古希(70歳)を迎えたことを機に「伊藤謝恩育英財団」を設立しました。雅俊は「商人の道」を伝えてくれた母と兄、そして商売を支えてくださった諸先輩や従業員、お客様への感謝の気持ちを込めて、財団名に「謝恩」の二文字を冠しました。「自ら学びたいことがあるにもかかわらず、経済的な理由で苦学を強いられる若者を援助したい」。



雅俊がそう願った背景には、自らの結婚を遅らせてまで自身を大学に通わせてくれた兄・譲への深い感謝があります。学べることのあるが、若い人たちの学びの機会を創ることで、お世話になった方々に報いたかったのです。伊藤謝恩育英財団は学問の分野や卒業後の進路などの制約は一切ありません。原則として、奨学金を返済する必要はありません。伊藤謝恩育英財団は若者の中で、21世紀を担う人として逆境にひるまず「自ら学ぶ」気概と行動力があり、かつ、温かい心で周囲を明るくし、皆から人望のある人を応援したいと考えます。その人たちがこの奨学金を勉学のために有効に活かし、その感謝の気持ちをさらに次の世代の若者に引き継いでくれることを願っています。

**「ご縁」を大切に、
厳しい指導で若者を育てる**

設立当初、奨学金の給付は雅俊の思いとは違った方向となりました。大学から推薦をされた学生に面接のみ行い、在学中の成績も進路先の報告も受けなかったため、



伊藤謝恩育英財団創立20周年記念式典で講演する雅俊。

学生は安易に多くの奨学金を得てしまい、自ら学ぶ意欲や感謝の気持ちを見失っていました。そこで、2003年度から支給基準を見直し、高校3年時に志望校を決めて合格したら奨学金を給付する形に変更しました。書類選考からすべて事務局で行い、常務理事を含め、選考委員5名が毎年100名以上の面接を行い、学部生40名、学部卒業生の中から大学院生5〜6名の奨学生を選考しています。毎年4月にはホテルで財団役員をお招きして授与式を行い、その

後、伊藤研修センターで1泊2日のオリエンテーション合宿を行います。9月には学生たちが自ら企画運営する研修会を1泊2日で実施。また、奨学金の給付後10日以内に必ず「手書き」の近況報告を添えて受領書を提出してもらい、それを事務局が丁寧に読みこんで成績表と照らし合わせ、心配がある奨学生は面接を行ってサポートします。また、書類に判を押すことやメールの書き方といった基礎的なマナーも細かく指導しています。その厳しさは、「きっと親御さん

伊藤謝恩育英財団とは



伊藤謝恩育英財団

財団の理念

- 教育とは、自ら学ぶこと
- 自己啓発の積み重ねがもたらす実りをいいます
- 助け合う気持ちを大切に
- 常に謝恩を心に刻もう
- 順境におごらず、逆境にひるまず
- 謙虚にして闊達な人づくりをめざします

お世話になった方々への感謝の気持ちを表すために、意欲ある若い人たちの育成に寄与したい

伊藤謝恩育英財団は、伊藤雅俊の発意により1994年に発足。学業に打ち込みたいと思っても、家庭の事情などによって勉学の機会を得られない若者に奨学金を給付しています。「幼少のころから母の後ろ姿に学び、母や兄と店を構えて以来、商売の基本、そして経営のよりどころとしてきたのは、『信頼』と『誠実』です。人生の節目にあたる古希を迎えるにあたり、これまでお世話になった多くの方々への感謝の気持ちを表すために、この財団を設立しました。そして、「自ら学ぶ」意欲を持つ若い人たちに奨学金を給付することによって、勉学の場や自己啓発の機会を提供し、有能な人材の育成に寄与したいと願っています。」(伊藤雅俊の言葉・財団HPより)

<https://www.ito-foundation.or.jp>

伊藤研修センターとは



グループが成長した歴史を学び、
「お蔭さま」の精神を忘れないでほしい

伊藤研修センターは、グループ従業員を育てる学びの場。創業理念の伝承と知識・技術の研鑽を目的に2012年に開設され、次世代を担う人材育成拠点、宿泊もできる教育施設としてグループ各社で活用されています。2020年にはリニューアルを実施し、オンライン研修などに対応する設備やレジなどの体験型展示を導入。グループの歴史を紹介する史料室もデジタル展示でさらにわかりやすく、商売の本質や小売業の意義に気づける場となっています。

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜2-19-1
<https://www.7andi.com/company/trainingcenter.html>



トヨーカ堂の創業期をはじめ、グループの歴史、セブンイレブンの革新、グループシナジー、未来を考察する企画展の、5つの展示ゾーンで構成されている史料室では、時代を経ても揺らぐことのない思想、変化への対応と基本の徹底、挑戦の意義を肌で感じ、学ぶことができます。



技能室では調理や加工技術の研修も行っている。

シンポジウム、研修などに利用されているほか、カフェやレストラも日々賑わっています。
同年、グループ従業員のための「伊藤研修センター」も設立。雅俊は常々、会社が自分たちだけで大きくなったと思ったら大間違いであり、感謝の心を絶対に忘れてはならないと考えており、多くの方々にお世話になった経緯を知ってもらいたいとの思いから、研修設備とともにグループの歴史を紹介する史料室をつくりました。「お客様のおかげ」「お取引先様のおかげ」「働く従業員のおかげ」という「お蔭さま」の精神を、なんとし

ても後進に伝えたかったのです。設立には、譲の妻であるせきも多額の私財を投じました。会社の将来を担う人たちのための研修センターができるの聞いてせきは涙を流して喜び、その直後に天寿を全うしました。
**若い世代へ支援を
行うことは、感謝の心を
次世代に伝えること**
お客様にはいつも笑顔の雅俊も、とりわけ従業員や家族にはとても厳しく指導していました。「何事も自分だけでできると思うな」「感謝の気持ちをなくすな」という思い

が強く、大切な人こそ激しく叱り、心底心配して、耳が痛いこともきちんと伝えていたのです。伊藤謝恩育英財団も今の時代では驚かれるほど厳しい指導方針ですが、後進の活躍を願うからこそ、これからは変わらぬ感謝の気持ちを持つことの大切さを若者たちに伝え続けます。
雅俊、伸子は、見返りを求めない人物でした。「自分ができていることは何でもしてさしあげなさい。でも、その人から何か返ってくることは期待してはいけない」と、家族によく話していたといいます。意欲ある若者たちの「学び」を支

援し続けた二人は、彼らから見返りを求めることなく、次世代のために役立つ人になってほしいと考えていました。現在、伊藤謝恩育英財団のOBは大学や財界、政治の分野でも活躍し、セブン&アイグループの従業員たちも日々努力を重ね、国内外問わずお客様の健康で豊かな生活を支えるために奮闘し続けています。
「感謝の気持ちで、世の中に役立つ仕事をするとだよ」と語っていた雅俊の思いは、多くの若者に受け継がれ、さらに次の世代へと途切れることなく引き継がれています。



「新入生歓迎会」「レクリエーション」「研修会企画」とそれぞれの企画で、「上級生や下級生との縦のつながり」「同学年との横のつながり」「住んでいる地域、通っている大学が異なる斜めのつながり」を深め、長く続くご縁がつけられるよう、学生自身が考案し運営する企画を実施。

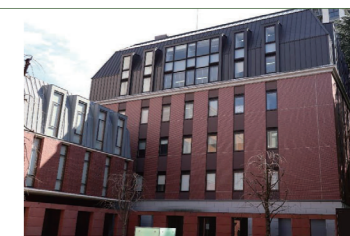
には必ず参加し、コロナ禍までは授与式も修了式もすべて自ら証書を手渡して、「がんばれよ」と声をかけながら握手を交わしていました。奨学生たちは「理事長が握手をしてくれたことがうれしかった！」と今も振り返っては喜んでおり、「がんばりなさい」「親御さんに感謝しなさい」と繰り返し伝えていたそのひと言は、若い人たちの胸にしつかり刻み込まれています。
**社会に対する
感謝の気持ちと
従業員に伝えたい思い**

東京大学の赤門の隣に「伊藤国際学術研究センター」を寄贈したのは、雅俊が米寿（88歳）の年のことです。孫が卒業したご縁から、「東大に国際的な学術会議が開催できる大ホールを建ててもらえないか」というお話をいただき、妻・伸子とともに社会に対する感謝の気持ちを形にしました。
雅俊は「欧米のように100年後もビクともしない建物にしてほしい」と願い、長期的なメンテナンス費用まで考えて寄付を寄せています。地下の伊藤謝恩ホールは芸術作品のようで、立派なものができた喜びをあらわにしています。現在まで数多くの国際会議

よりも口うるさいと思いますよ」と事務局の方が苦笑するほど。未だある若者の成長を願い、あえてそのように接しているのです。
「ご縁」を大切に、「出会いを大切に思うからこそ、まわりの方への温かい思いやりにつながり、相手の立場やお客様の立場に立って考えることにつながる」と、折に触れて話していた雅俊。その言葉通りに、伊藤謝恩育英財団では「同じ財団の奨学生になったのも

一つの縁」と考え、学生同士やOBはもちろん、有識者を招いての講演会や懇親会を定期開催してさまざまな交流の場を提供しています。今の学生はあまり人とのつながりを求めない傾向がありますが、卒業時には「こんなに楽しいとは思わなかった」「良い経験ができた」と感謝を伝えてくれることが多く、教育によって若い人たちが変わっていく姿が見られます。
雅俊も、財団の研修会や懇親会

東京大学 伊藤国際学術研究センターとは



グローバルな視点を持った
リーダー育成に寄与したい

伊藤国際学術研究センターは、伊藤雅俊と伸子夫人による東京大学への寄贈により、2012年4月に設立。大正時代に建てられた煉瓦造りの倉庫を組み込んだ優雅な佇まいの建物には最大500名対応の伊藤謝恩ホールのほか、レストランやギャラリーを擁し、グローバルな視野を持ったリーダー育成の施設、学究のための国際会議・種々学会の施設、レセプションやファカルティクラブの施設としての役割を担っています。

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/iirc/ja/index.html>